

第92回箱根駅伝

総合12位

連続出場へ向け再始動!

第92回東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)は1月2、3日に行われ、男子駅伝部は総合12位となり、惜しくも2年連続のシード権(10位以内)獲得はならなかった。往路は10位と同タイムの11位とまずまずの位置につけ、復路で上位進出を目指したが、16位と波に乗れなかった。今回走った10人中、8人が残る新チームは、秋の予選会で14年連続14回目の出場を誓う。また、昨年12月30日に行われた2015全日本大学女子選抜駅伝競走(富士山女子駅伝)に出場した女子駅伝部は11位だった。シード権や入賞を逸した両部の選手たちは、リベンジを胸に前を向いている。

今年も準エース級がそろった1区は、ハイペースの展開となった。起用されたのは、昨山下下りを経験した西岡喬介(経営4)。10時過ぎから徐々に遅れたものの粘ってトップから1分51秒差、14位で花の2区・菊地聡之(経営3)に襷をつないだ。昨年3月にアキレス腱を痛め、半年間走れなかった菊地だが、4人抜き区間7位の好走を見せ、シード圏内の10位に順位を上げた。囁きながら入学以来、けがに泣かされてきた高橋一生(経営3)が初の箱根でさらに2人を抜いて8位に。4区・酒井雅喜(経営2)も9位と粘って同じく2年で5区起用の中舎優也(経営2)に往路の最後を託した。中舎は懸命の走りを見せたが、ゴール直前で拓殖大に抜かれて11位。それでも往路は拓殖大とは同タイムだった。

2年連続のシードを目指して勝負の復路だったが、山下の佐藤穩空(経営3)が一斉スタート組から徐々に遅れてしまった。7区・山本竜也(経営2)、大会前に足を痛めた新エース、8区・松村陣之助(経営3)も流れに乗れない。優勝した青山学院大の好記録の影響で、9区・菅真大(経営2)、10区・辻井三嗣(経営4)とも繰り上げスタートという残念な結果となった。

しかし、今大会は10人中6人が初の箱根路で、3年生以下が8人を占めた。秋の予選会には大きな期待がかかる。14年連続14回目の箱根駅伝出場を目指して再始動した男子駅伝部に新たなエールを送ろう。

【岩内菜緒】

10区(注井)上七、5区(中舎)中二、岩内菜緒撮影、8区(松村)上二、高桑霞美撮影



9区(岩内)菜緒撮影



1区(西岡)高桑霞美撮影

歴代成績

第80回	総合19位	11時間42分15秒
第81回	総合15位	11時間22分49秒
第82回	総合11位	11時間16分10秒
第83回	総合11位	11時間20分50秒
第84回	総合11位	11時間20分19秒
第85回	途中棄権	
第86回	総合6位	11時間17分53秒
第87回	総合11位	11時間13分26秒
第88回	総合6位	11時間10分17秒
第89回	途中棄権	
第90回	総合19位	11時間25分42秒
第91回	総合7位	11時間8分15秒
第92回	総合12位	11時間20分6秒

総合成績

総合 12位 (11時間20分6秒)
 《往路》11位 (5時間37分42秒)
 《復路》16位 (5時間42分24秒)

オーダー	記録	区間順位
1区 (21・3*)	西岡 喬介 (経営4) 1時間 3分13秒	14位
2区 (23・1*)	菊地 聡之 (経営3) 1時間 8分39秒	7位
3区 (21・4*)	高橋 一生 (経営3) 1時間 4分42秒	9位
4区 (18・5*)	酒井 雅喜 (経営2) 56分48秒	10位
5区 (23・2*)	中舎 優也 (経営2) 1時間 24分20秒	16位
6区 (20・8*)	佐藤 穩空 (経営3) 1時間 2分32秒	16位
7区 (21・3*)	山本 竜也 (経営2) 1時間 6分40秒	17位
8区 (21・4*)	松村陣之助 (経営3) 1時間 7分36秒	16位
9区 (23・1*)	菅 真大 (経営2) 1時間 12分9秒	11位
10区 (23・0*)	辻井 三嗣 (経営4) 1時間 13分27秒	15位

監督・主将談話

榊部 静二 監督の話 (報告会から)

往路11番で、復路で追い上げようと、チーム一丸となってやってきましたが、最後は力及ばずこのような結果となりました。今チームは強い卒業生が抜けて、大きくチームが変わらなければならぬと強化してきました。目標の5位には届きませんでした。往路の1区、4区で新しい芽が出てきたとの思いもあります。復路は残念ながら下位のチームと競る感じになって力が出せなかったというの

が実情です。今回は4年生が2人しか出ることができなかったのが、8人が残り、プラス下の学年たちが強くなって、またこの地に帰って来たいと思っております。支えてくれた4年生やキャプテンの舟生は今日、走れませんでした。その思いは3年生以下につながるのではないかと思います。今後もしっかり頑張りたいと思います。

舟生 翔人 主将の話

2日間、応援ありがとうございました。1年間、総合5位、そし

て2年連続シード権を目標に努力してきました。往路はいい流れでしたが、復路の選手は頑張ってくれましたが、うまく流れに乗れずに目標を達成することができませんでした。自分は主将として最後は走れませんでした。このメンバー、このチームと一緒にやれたことが、自分の誇りになっています。

後輩はまた予選会からのスタートになりますが、後輩は必ず予選会を突破してここにまた戻って来てくれると思うので、これからも応援よろしくお願いします。

城西大学 Sports

箱根駅伝報告号



2016年 1月 vol.24

城西大学の題字は創立者・水田三喜男先生
 発行所：〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台1-1 城西大学

記者募集

記事を書いてみませんか。初心者でも大丈夫です。新聞記者経験がある職員が取材・書き方を基本から指導します。留学生も「学生記者」として活躍しています。興味がある学生、やる気がある学生、大歓迎です。写真、イラスト、漫画などで協力してくれる学生もぜひ参加してください。

連絡はこちらまで j-sports@josai.ac.jp

2区(菊地)上二、高桑霞美撮影、3区(高橋)左七、4区(酒井)左下、高桑霞美撮影



悔しい思いを忘れず次は笑顔で

——城西ランナーの声

男子駅伝部＝岩内菜緒撮影



10人中6人が初の箱根路を走った今年の箱根駅伝。「悔しかった」「また這い上がるだけ」「沿道の応援に感動」「練習の質を上げて勝負」……。リベンジを胸に前を向く選手たちの声を集めた。

ではなかったが、個人では花の2区で思いっきり走る事ができたので悔いはない。落ちたら、また這い上がるだけだと考えている。

3区・高橋一生(3年)
声援がすごくて走っていて楽しかったが、後半ペースが上がらずにきつかった。もう少し順位を上げ、前とのタイムを縮めてみんなを楽にさせてやりたいかった。昨年は練習を継続してやることを課題にしていたので、今年は練習の質を上げて勝負の年にしていきたい。

1区・西岡喬介(4年)
速いペースでのレース展開に焦ることなく、落ち着いた走りをする事ができた。ただ、先頭集団についていく力がなかったことは、とても悔しかった。しかし、4年間、駅伝部として活動してきた中で、一番力を出し切れたレースになったと自負している。

8区・松村陣之助(3年)
主力として出していけないうタイムだった。1カ月ほど前から足を痛めて、十分に練習ができず、不安を残したまま臨んだ。満足はいく走りができなかった。しかし、このままでは終わりにたくない。1年間かけて練習を重ね、次は笑顔で終わりたい。

4区・酒井雅喜(2年)
ベストな状態で挑めなかったことが一番の反省点。今後は、逆算して箱根駅伝に一番いい状態を合わせたいと思う。応援ありがとございませう。

9区・菅真大(2年)
去年と同じく9区を走らせてもらった。少しでも流れを変える走りができれば良かったが、後半に失速して力不足を知る結果となった。チームとしても目標に届かず、悔しい思いをしたので、来年度は上級生としてチームの核となる選手に成長できるよう練習に励みたい。

2区・菊地聡之(3年)
チームの結果は望んだものの

5区・中倉優也(2年)
夢だった箱根駅伝を走れて本当にうれしかった。また新しい目標ができた。沿道の応援がすごくて感動した。勢いを止めてしまったので、来年は自分が流れを委ねる選手になりたい。

5区・中倉優也(2年)
夢だった箱根駅伝を走れて本当にうれしかった。また新しい目標ができた。沿道の応援がすごくて感動した。勢いを止めてしまったので、来年は自分が流れを委ねる選手になりたい。

10区・辻井三嗣(4年)
最後の年で初めて箱根駅伝に出場することができた。走っている最中は今まで一番苦しかったが、その半面、歓声に心えたい、仲間や指導者の期待に心えたいと思いがから走るレースがこんなに気持ちがいいと感じたのは初めてだった。陸上競技の選手としては、まだまだ未熟だということも思い知らされた。箱根駅伝を最後に競技者として一線を退くが、この悔しさを社会に出るからの生きる糧にしたい。

6区・佐藤穂空(3年)
往路の流れを復路のスタートの自分で崩してしまって、本当にみんなに申し訳ない気持ちと悔しい気持ちでいっぱいだった。シードを取れなかったのも、流れを作れなかったのも自分の責任。最後の1年、この思いを忘れずに必死にしがみついていた。

7区・山本竜也(2年)
今回は全く納得いく走りができなかった。いいところがひとつもなかった。監督の期待に答えられず、力不足を嫌というほど感じたので、力をつけて帰ってきたい。そのために競技との向き合い方を再確認して、一試合一試合を大事にしていきたい。

全日本大学女子選抜駅伝競走

粘りの走りですべて最後まで接戦

新チームへの期待をつなぐ

昨年12月30日、全日本大学女子選抜駅伝競走(富士山女子駅伝)が静岡県の富士市で舞台に行われた。

1区・上田末奈(経営1)は先頭集団に位置していたが、3区過ぎに遅れ始めトップと55秒差の12位で襷をつないだ。関東予選、仙台でも区間好成績を収め波に乗っている

2区・高沢真歩(現代政策1)が区間5位の好走で4人を抜きチームを8位まで押し上げた。続く3区・牧野夏奈(現代政策2)は果敢に攻めるも、順位を一つ落とし9位で4区・和田春香(経営3)へ。

5区・7区の後半区間は4年生同士の襷リレーとなった。5区・岸田美香(現代政策4)は区間9位の走りでも順位を一つ上げ、10位で田島美加(経営4)へ。田島は粘るも順位を一つ下げて11位で最終区間の7区に入った。池神悠希(経営4)は10位の西日本選抜と最後のトラックレースまでもつれ込む接戦を繰り広げた

が、順位は変わらずチームは総合11位でフィニッシュした。

主将の茂木美優(医療栄養4)は「全員が最善を尽くしたが、入賞に達することができなかった」と振り返った。「後輩たちは実力ある選手ばかり。来年度は確実に入賞するチームになると思う。監督を胸上げてほしい」と後輩たちに富士山女子駅伝入賞の目標を託した。

富士山女子駅伝をもって4年生は引退となる。今回走った7人のうち3人が抜けることになるが、1年生の上田、高沢、今回が欠場した次期エースの福居紗希(現代政策2)など頼もしい顔触れが残りの、来年度の新チームに期待がかかる。

【高桑霞美】



3区の牧野(上)＝吉田美咲撮影、6区の田島(下右)、7区の池神(下左)＝高桑霞美撮影



女子駅伝部＝高桑霞美撮影

女子駅伝部

総合11位

総合 11位 (2時間29分25秒)

総合成績

オーダー	記録	区間順位
1区 (6.6%) 上田末奈 (経営1)	21分14秒	13位
2区 (3.5%) 高沢真歩 (現代政策1)	11分08秒	5位
3区 (4.4%) 牧野夏奈 (現代政策2)	14分45秒	11位
4区 (9.4%) 和田春香 (経営3)	32分18秒	10位
5区 (5.0%) 岸田美香 (現代政策4)	16分30秒	9位
6区 (6.8%) 田島美加 (経営4)	23分40秒	12位
7区 (7.7%) 池神悠希 (経営4)	29分50秒	15位

取材スタッフ

編集長 松岡遊史 (薬学部3年)

吉田美咲 (経営学部4年)

高桑霞美 (経営学部2年)

佐川由紀 (経営学部4年)

間井田成美 (薬学部3年)

巻幡仁美 (薬学部3年)

本間智久 (薬学部2年)

西村健太郎 (薬学部3年)

本多里菜 (薬学部2年)

岩内菜緒 (経営学部2年)

疋田彩海 (経営学部1年)

渡辺真輝 (経営学部2年)

渡邊春花 (経営学部1年)

アドバイザー

知見寺美紀 (2014年度卒業)